# 平家物語

## 木曽の最期 ―品詞分解―

木曽左馬頭、（代）そ（格助・体修）の日（格助・体修）の装束（格助・資格）に（係助・区別）は、赤地（格助・体修）の錦（格助・体修）の直垂（格助・添加）に唐綾威（格助・体修）の鎧（カ上一・用）着（接助・単接）て、（タ四・用（促音）・存・体）打つ（格助・体修）たる甲（格助・体修）の緒（マ下二・用）締め、いかもの作り（格助・体修）の大太刀（カ四・用）はき、石打ち（格助・体修）の矢（格助・同格）の、（代）そ（格助・体修）の日（格助・体修）のいくさ（格助・時間）に（ヤ上一・用）射（接助・単接）て（副）少々（ラ四・用（促音）・存・体）残つ（格助・対象）たる（形動ナリ・用）を、頭高に（サ四・用）負ひなし、重籐（格助・体修）の弓（タ四・用（促音）・接助・単接）持つ（ヤ下二・体）て、聞こゆる（格助・体修）木曽（格助・引用）の鬼葦毛と（ハ四・体）いふ馬（格助・同格）の、（形ク・用（ウ音）・形シク・体（イ音））太う（副）きはめて（格助・体修）たくましい（格助・対象）に、（格助・体修）黄覆輪の鞍（カ四・用（イ音）・接助・単接）置い（係助・強意（係））て（ラ四・用（促音）・過・体（結））ぞ（存・用）乗つ（ガ下二・用・接助・単接）けるる。鐙（ラ四・用）踏ん張り（格助・対象）大音声（ラ四・用）を（ガ下二・用・接助・単接）立ち上がり、名乗り（係助・提示）（ラ四・用・過・体）は、けるる。

「昔（係助・区別）は聞き（カ四・用）けん（過推・体）ものを、木曽（格助・体修）の冠者、今（係助・区別）は（マ上一・終）見る（現推・終）らん、左馬頭兼伊予守朝日の将軍源義仲（係助・強意）ぞ（格助・体修）の甲斐（格助・引用）と（係助・強意（係））こそ（カ四・已（結））聞け。（形ク・体（イ音））よい（格助・体修）敵（係助・強意）ぞ。（タ四・用（促音）・接助・単接）討つ（副）互ひに（サ下二・命）見せよ（間助・呼掛）や。」

（格助・引用）とて、（カ四・用（イ音）・接助・単接）をめい（カ下二・終）て駆く。一条次郎、（ラ四・体）名乗る（係助・提示）は大将軍（係助・強意）ぞ。（サ四・終）あます（終助・禁止）な者ども、（副）「ただ今（サ四・終）もらす（終助・禁止）な若党、（タ四・命）討て（間助・呼掛）や。」（格助・場所）に（格助・体修）の中（マ下二・用）取りこめ（接助・単接）て、（格助・引用）とて、（代）我

討つ取ら（ラ四・未）ん（意・終）と（格助・引用）ぞ（係助・強調）進み（マ四・用）ける（過・体（結））。　木曽三百余騎、六千余騎が（格助・体修）中を（格助・経場）縦さま、横さま、蜘蛛手、十文字に（格助・状態）駆け割つ（ラ四・用（促音））て（接助・単接）、後ろへ（格助・方向）つつと（副）出で（ダ下二・用）たれ（完・已）ば（接助・順偶）、五十騎ばかり（副助・程度）に（格助・変化）なり（ラ四・用）に（完・用）けり（過・終）。そこ（代）を（格助・対象）破つ（ラ四・用（促音））て（接助・単接）行く（カ四・体）ほど（格助・時間）に（格助・時間）、土肥二郎実平、二千余騎で（格助・手段）ささへ（ハ下二・用）たり（存・終）。それ（代）を（格助・対象）も（係助・同類）破つ（ラ四・用（促音））て（接助・単接）行く（カ四・体）ほど（格助・時間）に（格助・時間）、あそこ（代）で（格助・場所）は（係助・区別）四、五百騎、ここ（代）で（格助・場所）は（係助・区別）二、三百騎、四、五十騎、百騎ばかり（副助・程度）が（格助・体修）中を（格助・経場）駆け割り（ラ四・用）駆け割り（ラ四・用）行く（カ四・体）ほど（格助・時間）に（格助・時間）、主従五騎に（格助・変化）ぞ（係助・強意（係））なり（ラ四・用）に（完・用）ける（過・体（結））。五騎が（格助・体修）うち巴は（係助・区別）討た（タ四・未）れ（受・未）ざり（打・用）けり（過・終）。木曽殿、「おのれ（代）は（係助・区別）、疾う（形ク・用（ウ音））、疾う（形ク・用（ウ音））、女なれ（断・已）ば（接助・順理）、いづち（代）へ（格助・方向）も（係助・強意）行け（カ四・命）。我（代）は（係助・区別）討ち死にせ（サ変・未）ん（意・終）と（格助・引用）思ふ（ハ四・体）なり。もし（副）人手に（格助・対象）かから（ラ四・未）ば（接助・順仮）自害を（格助・対象）せ（サ変・未）んずれ（推・已）ば、木曽殿の（格助・主格）最後の（格助・体修）いくさに（格助・時間）、女を（格助・対象）具せ（サ変・未）られ（尊・用）たり（存・用）けり（過・終）なんど、副助・例示）さ言は（ハ四・未）れ（受・未）ん（仮・体）こと（格助・引用）も（係助・同類）しかる（ラ変・体）べから（適・未）ず。」打・終）ざり（打・用）ける（過・体）が（接助・逆確）、あまりに（副）言は（ハ四・未）れ（受・用）奉つ（補動（謙）・ラ四・用（促音））て（接助・単接）、「あつぱれ、（感）よから（形ク・未）う（婉・体（ウ音））敵（終助・願望）がな。最後の（格助・体修）いくさし（サ変・用）て（接助・単接）見せ（サ下二・用）奉ら（補動（謙）・ラ四・未）ん（意・終）。」とて（格助・引用）控へ（ハ下二・用）たる（存・体）ところ（格助・場所）に、武蔵の国に（格助・場所）聞こえ（ヤ下二・用）

たる（存・体）　大力、御田八郎師重、三十騎　ばかり（副助・程度）　で（格助・状態）　出で来（カ変・用）　たり。（完・終）　巴、

そ（代）　の（格助・体修）　中　へ（格助・方向）　駆け入り、（ラ四・用）　御田八郎　に（格助・対象）　押し並べ（バ下二・用）

て、（接助・単接）　むずと　副　取つ　ラ四・用（促音）　て（接助・単接）　引き落とし、（サ四・用）　わ（代）　が（格助・主格）

乗つ　ラ四・用（促音）　たる（存・体）　鞍　の（格助・体修）　前輪　に（格助・対象）　押しつけ（カ下二・用）　て、（接助・単接）

ちつとも　副　はたらかさ（カ四・未）　ず、（打・用）　首　ねぢ切つ　ラ四・用（促音）　て（接助・単接）　捨て（タ下二・用）

てん（連語〔完・用（擬音）＋過・終〕）　げり。　そ（代）　の（格助・体修）　後、物の具　脱ぎ捨て、東国　の（格助・体修）

方　へ（格助・方向）　落ち（タ上二・用）　ぞ（係助・強意（係））　行く（カ四・体（結））。　手塚太郎　討ち死にす（サ変・終）。

手塚別当　落ち（タ上二・用）　に（完・用）　けり（過・終）。

今井四郎、木曽殿、主従　二騎　に（格助・変化）　なつ　ラ四・用（促音）　て（接助・単接）

のたまひ（ハ四・用（尊）語り手→義仲）　ける（過・体）　は（係助・提示）、

「日ごろ　は（係助・区別代）　何　と（格助・引用）　も（係助・強意）　おぼえ　ヤ下二・未　ぬ（打・体）　鎧　が（格助・主格）　今日

は（係助・区別）　形ク・用（ウ音）　重う　なつ　ラ四・用（促音）　たる（完・体）　ぞ（係助・強意）　や（間助・詠嘆）。」

今井四郎　申し（サ四・用（謙）語り手→義仲）　ける（過・体）　は（係助・提示）、

「御身　も（係助・列挙）　いまだ　副　疲れ　ラ下二・未　させ　尊・用（兼平→義仲）　給は　補動・ハ四・未（尊）兼平→義仲　ず。（打・終）

御馬　も（係助・列挙）　弱り　ラ四・用　候は　補動・ハ四・未（丁）兼平→義仲　ず。（打・終）　何　代　に　格助・対象　よつ　ラ四・用（促音）

て（接助・理由）　か（係助・反語（係））、　一領　の（格助・体修）　御着背長　を（格助・対象）　重う　形ク・用（ウ音）

は（係助・強意）　おぼしめし　サ四・用（尊）兼平→義仲　候ふ　補動・ハ四・終（丁）兼平→義仲　べき。（当・体（結））　それ　代　は（係助・提示）　御

方　に（格助・場所）　御勢　が（格助・主格）　候は　ハ四・未（丁）兼平→義仲　ね　打・已　ば、（接助・順理）　臆病

で（格助・理由）　こそ　係助・強意（係）　さ　副　は　係助・強意　おぼしめし　サ四・用（尊）兼平→義仲　候へ　補動・ハ四・已（結）（丁）兼平→義仲。

兼平　一人　候ふ　ハ四・終（謙）兼平→義仲　とも、（接助・逆仮）　余　の（格助・体修）　武者　千騎

と（格助・引用）　おぼしめせ。（サ四・命（尊）兼平→義仲）　矢　七つ　八つ　候へ　ハ四・已（丁）兼平→義仲　ば、（接助・順理）

しばらく　副　防ぎ矢　つかまつら　ラ四・未（謙）兼平→義仲　ん。（意・終）　あれ　代　に　格助・方向　見え　ヤ下二・用

候ふ　補動・ハ四・体（丁）兼平→義仲　、　粟津の松原　と　格助・引用　申す　サ四・終（謙）兼平→義仲。　あ　代　の　格助・体修

松の（格助・体修）　中で（格助・場所）　御自害　候へ（ハ四・命（丁）兼平→義仲）。」

とて、（格助・引用）　打つ（タ四・用（促音））　て（接助・単接）　行く（カ四・体）　ほど（格助・時間）　に、　また（副）　新手

の（格助・体修）　武者五十騎　ばかり（副助・程度）　出で来（カ変・用）　たり。（完・終）

「君　は（係助・区別）　あ（代）　の（格助・体修）　松原　へ（格助・場所）　入ら（ラ四・未）　せ（尊・用（兼平→義仲））

給へ（補動・ハ四・命（尊）兼平→義仲）。　兼平　は（係助・区別）　こ（代）　の（格助・体修）　敵　防ぎ（ガ四・用）

候は（補動・ハ四・未（丁）兼平→義仲）　ん。（意・終）」

と（格助・引用）　申し（サ四・用（謙）語り手→義仲）　ば（接助・順偶）、　木曽殿　の（格助・体修）　たまひ（ハ四・用（尊）語り手→義仲）　ける（過・体）

は（係助・提示）、

「義仲　都　にて（格助・場所）　いかにも（副）　なる（ラ四・終）　べかり（当・用）　つる（完・体）　が（接助・逆確）、　これ（代）

まで（副助・範囲）　逃れ来る（カ変・体）　は（係助・区別）、　なんぢ（代）　と（格助・相手）　一所　で（格助・場所）　死な（ナ変・未）

ん（意・終）　と（格助・引用）　思ふ（ハ四・体）　ため　なり。（断・終）　ところどころ　で（格助・場所）　討た（タ四・未）　れ（受・未）

ん（婉・体）　より（格助・比基）　も（係助・強意）、　ひとところ　で（格助・場所）　こそ（係助・強意（係））　討ち死に

も（係助・強意）　を（格助・対象）　せ（サ変・未）　め（意・已（結））。」

とて、（格助・引用）　馬　の（格助・体修）　鼻　を（格助・対象）　並べ（バ下二・用）　て（接助・単接）　駆け（カ下二・未）　ん（意・終）

と（格助・引用）　し（サ変・用）　給へ（補動・ハ四・已（尊）語り手→義仲）　ば（接助・順理）、　今井四郎　馬　より（格助・起点）

飛び降り（ラ上二・用）、　主　の（格助・体修）　馬　の（格助・体修）　口　に（格助・対象）　取りつい（カ四・用（イ音））　て（接助・単接）

申し（サ四・用（謙）語り手→義仲）　ける（過・体）　は（係助・提示）、

「弓矢取り　は（係助・提示）、　年ごろ、日ごろ　いかなる（形動ナリ・体）　高名

ども、（接助・逆恒）　最後　の（格助・体修）　とき　不覚し（サ変・用）　つれ（完・已）　ば、（接助・順恒）　長き（形ク・体）　きず

に（断・用）　て（接助・単接）　候ふ（補動・ハ四・体（丁）兼平→義仲）　なり。（断・終）　御身　は（係助・区別）　疲れ（ラ下二・未）

させ（尊・用（兼平→義仲））　給ひ（補動・ハ四・用（尊）兼平→義仲）　て（接助・単接）　候ふ（補動・ハ四・終（丁）兼平→義仲）。　続く（カ四・体）　勢

は（係助・区別）　候は（ハ四・未（丁）兼平→義仲）　ず。（打・終）　敵　に（格助・受対）　押し隔て（タ下二・未）　られ、（受・用）

言ふかひなき（形ク・体）　人　の（格助・体修）　郎等　に（格助・受対）　組み落とさ（サ四・未）　れ（受・未）

させ（尊・用（兼平→義仲））　給ひ（補動・ハ四・用（尊）兼平→義仲）　て（接助・単接）　討た（タ四・未）　れ（受・未）　させ（尊・用（兼平→義仲））

給ひ（補動・ハ四・用（尊）兼平→義仲）　な（完・未）　ば（接助・順仮）、　『さばかり（副）　日本国（格助・場所）　に　聞こえ（ヤ下二・未）

させ（尊・用（敵）→義仲）　給ひ（補動・ハ四・用（尊）（敵）→義仲）　つる（完・体）　木曽殿（連語（格助・対象+係助・強意））　をば、

それがし（代）　が（格助・体修）　郎等（格助・主格）　の　討ち（タ四・用）　奉つ（補動・ラ四・用（促音）（謙）（敵）→義仲）　たる。（完・体）』

なんど（副助・例示）　申さ（サ四・未（謙）兼平→義仲）　ん（婉・体）　こと　こそ（係助・強意（係））　口惜しう（形シク・用（ウ音））

候へ（補動・ハ四・已（結）（丁）兼平→義仲）。　ただ（副）　あ（代）　の（格助・体修）　松原　へ（格助・方向）　入ら（ラ四・未）

せ（尊・用（兼平→義仲））　給へ（補動・ハ四・命（尊）兼平→義仲）。」

と（格助・引用）　申し（サ四・用（謙）語り手→義仲）　けれ（過・已）　ば（接助・順理）、　木曽、

「さらば。」（接）

とて、（格助・引用）　粟津の松原　へ（格助・方向）　ぞ（係助・強意（係））　駆け（カ下二・用）　給ふ（補動・ハ四・体（結）（尊）語り手→義仲）。

今井四郎　ただ（副）　一騎、五十騎　ばかり（副助・程度）　が（格助・体修）　中　へ（格助・方向）

駆け入り、（ラ四・用）　鐙　踏ん張り（ラ四・用）　立ち上がり、（ラ四・用）　大音声　上げ（ガ下二・用）　て（接助・単接）

名乗り（ラ四・用）　ける（過・体）　は、（係助・提示）

「日ごろ　は（係助・区別）　音　に（格助・対象）　も（係助・同類）　聞き（カ四・用）　つ（強・終）　らん、（現推・終）　今

は（係助・区別）　目　に（格助・対象）　も（係助・同類）　見（マ上一・用）　給へ（補動・ハ四・命（尊）兼平→敵）。　木曽殿　の（格助・体修）

御乳母子、今井四郎兼平、生年　三十三　に（格助・変化）　まかりなる。（ラ四・終（謙）兼平→敵）　さる（連）

者　あり（ラ変・終）　と（格助・引用）　は（係助・提示）、鎌倉殿　まで（副助・範囲）　も（係助・強意）　知ろしめさ（サ四・未（尊）兼平→頼朝）

れ　たる（存・体）　らん（現推・体）　ぞ（係助・強意）。　兼平　討つ（タ四・用（促音））　て（接助・単接）　見参

に（格助・対象）　入れよ。（ラ下二・命）」

とて、（格助・引用）　射残し（サ四・用）　たる（完・体）　八筋　の（格助・体修）　矢　を（格助・対象）、　さしつめ（マ下二・用）

引きつめ（マ下二・用）　さんざんに（形動ナリ・用）　射る。（ヤ上一・終）　死生　は（係助・区別）　知ら（ラ四・未）　ず、（打・用）　やにはに（副）

敵　八騎　射落とす。（サ四・終）　そ（代）　の（格助・体修）　後　打ち物　抜い（カ四・用（イ音））　て、（接助・単接）

に（格助・場所）　馳せ合ひ、（ハ四・用）　これ（代）　に（格助・場所）　馳せ合ひ、（ハ四・用）　切つ（ラ四・用（促音））　て（接助・単接）

あれ（代）

回る（ラ四・体）　に（接助・単接）、　面（格助・対象）を　合はする（サ下二・体）　者（係助・強意（係））ぞ　形ク・体（結）なき。　分捕り（副）あまた　し（サ変・用）たり（完・用）　けり。（過・終）　ただ（副）、

「射とれ（ラ四・命）　や（間助・呼掛）。」

とて（格助・引用）、　中（格助・場所）に　取りこめ（マ下一・用）、　雨（格助・主格）の　降る（ラ四・体）　やうに　射（ヤ上一・用）

けれ（過・已）　ども（接助・逆確）、　鎧（形ク・已）　よけれ　ば（接助・順理）　裏（格助・対象）かか　ず（打・用）、　あき間（格助・対象）を

射（ヤ上一・未）　ね（打・已）　ば（接助・順理）　手（係助・強意）も　負は（ハ四・未）　ず（打・終）。

木曽殿（係助・区別）は　ただ（副）一騎、粟津の松原（格助・方向）へ　駆け（カ下二・用）

給ふ（補動・ハ四・体（尊）・語り手→義仲）　が（接助・単接）、　正月二十一日（副助・程度）ばかり（格助・体修）の　こと

なる（断・体）　に（接助・添加）、　薄氷（係助・提示）は　張つ（ラ四・用（促音））たり（存・用）　けり（過・終）、　深田（ラ変・終）あり

と（格助・引用）　も（係助・同類）　知ら（ラ四・未）　ず（打・用）　して（接助・理由）、　馬（格助・対象）を　ざつと（副）　うち入れ（ラ下二・用）

たれ（完・已）　ば（接助・順偶）、　馬（格助・体修）の　頭（係助・同類）も　見えず（ヤ下二・未）　ざり（打・用）　けり。（過・終）　あふれ（ラ四・已）

ども（接助・逆確）　あふれ（ラ四・已）　ども、（接助・逆確）　打て（タ四・已）　ども（接助・逆確）　打て（タ四・已）　ども（接助・逆確）　はたらか

ず。（打・終）　今井（格助・体修）が　行方（格助・体修）の　おぼつかなさ　に（格助・理由）、　振り仰ぎ（ガ四・用）

給へ（補動・ハ四・已（尊）・語り手→義仲）　る（完・体）　内甲（格助・対象）を、　三浦（格助・体修）の　石田次郎為久、

追つかかつ（ラ四・用（促音））　て（接助・単接）　よつぴい（カ四・用（イ音））　て（接助・単接）　ひやうふつと（副）　射る。（ヤ上一・終）　痛手（断・已）なれ

ば、（接助・順理）　真向（格助・対象）を　馬（格助・体修）の　頭（格助・体修）に　当て（タ下二・用）　て、（接助・単接）

うつぶし（サ四・用）　給へ（補動・ハ四・已（尊）・語り手→義仲）　る（完・体）　ところ　に、（格助・時間）　石田（格助・体修）が　郎

等二人　落ち合う（ハ四・用（ウ音））　て、（接助・単接）　つひに（副）　木曽殿（格助・体修）の　首

連語（格助・対象+係助・強意）　をば　連語（完・用（擬音）+過・終）　てんげり。　太刀（格助・体修）の　先

格助・場所）に　貫き、（カ四・用）　高く（形ク・用）　さし上げ、（ガ下二・用）　大音声（格助・対象）を　上げ（ガ下二・用）　て、（接助・単接）

「こ（代）　の（格助・体修）　日ごろ　日本国（格助・場所）に　聞こえ（ヤ下二・未）　させ（尊・用（為久→義仲））

給ひ（補動・ハ四・用（尊）・為久→義仲）　つる（完・体）　木曽殿　をば、（連語（格助・対象+係助・強意））　三浦（格助・体修）の　石田

次郎為久　が（格助・主格）　討ち（タ四・用）　奉つ（補動・ラ四・用（促音）（謙）・為久→義仲）　たる（完・体）　ぞ（係助・強意）　や。（間助・呼掛）」

と（格助・引用）
名乗り（ラ四・用）
けれ（過・已）
ば、（接助・順理）
今井四郎　いくさ
し（サ変・用）
ける（過・体）
が（接助・逆確）

これ（代）を（格助・対象）
聞き、（カ四・用）

「今
は（係助・区別）
誰（代）
を（格助・対象）
かばは（ハ四・未）
ん（意・終）
とて（格助・引用）
か、（係助・反語（係））
いくさ

を（格助・対象）
も（係助・強意）
す（サ変・終）
べき。（当・体（結））
これ（代）
を（格助・対象）
見（マ上一・用）
給へ、（補動・ハ四・命（尊）・兼平→敵）

東国
の（格助・体修）
殿ばら、日本一
の（格助・体修）
剛（形動ナリ・語幹）
の（格助・体修）
者
の（格助・主格）

自害する（サ変・体）　手本。」

とて、（格助・引用）
太刀
の（格助・体修）
先
を（格助・対象）
口
に（格助・場所）
含み、（マ四・用）
馬
より（格助・起点）

逆さまに（形動ナリ・用）
飛び落ち、（タ上二・用）
貫かつ（ラ四・用（促音））
て（接助・単接）
ぞ（係助・強意（係））
失せ（サ下二・用）
に
完・用

ける。（過・体（結））
さて（副）
こそ（係助・強意（係））
粟津
の（格助・体修）
いくさ
は（係助・区別）
なかり（形ク・用）

けれ。（過・已（結））